



仙台大学 広報室

Monthly Report

ハワイ大学マノア校教育学部KRSとの 基本合意書締結



左からKRSのムラタ学科長、ヤング教育学部長、朴澤理事長、阿部学長

平成26年9月3日（ハワイ時間：日本時間の9月4日）仙台大学はハワイ大学マノア校のカレッジコラボレーションセンター（米国ハワイ州）においてハワイ大学マノア校教育学部キネシオロジーアンドリハビリテーション科学学科（KRS）との国際学術交流に関する基本合意書を締結しました。

同大学とは、平成6年に仙台大学の姉妹校である明成高等学校で、修学旅行先がハワイになったことをきっかけにし、アスレティックトレーニング及び運動生理学に係る高度な教育内容が本学の学生に適しているとの理由によりさまざまなやりとりを積み重ねた結果、平成15年12月に「第1回のアスレティックトレーニング研修」を、平成16年4月には同大学から無料のインターネットによる「遠隔授業」を実施するなど、着実に学術交流と連携を積み重ねて参りました。

基本合意書締結は、スポーツ科学、体育科教育、アスレティックトレーニング及び運動生理学に係る米国での教育、日本での教育に関する専門的知識・技術の共有をはじめ、共同研究、留学生・教職員交換プログラムの運営他を目的としています。

【裏面に続く】

< 目 次 >

ハワイ大学マノア校教育学部KRSとの基本合意書締結	1
大自然の中で仲間と過ごした4日間—平成26年度仙台大学「キャンプ」	4
生活習慣病予防運動教室を開催	5
互理・仮設住宅で仙台大学と獨協大学との共同ボランティア活動を実施	6
2014東北こども博—10月12日(日)・13日(月・祝)に開催決定	8
学生の競技結果	9

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら
 広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
 にも旬な話題を提供していきたいと考えて
 おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございま
 したら、広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

渡辺誠司 271

土生佐多 200

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

調印式に臨んだ教育学部のヤング学部長は「東北地方唯一の体育大学である仙台大学と10年以上もの永きに渡り信頼あるパートナーシップを深められたことは、ハワイ大学が学生達に国際交流を推進している方針とも合致し、大変画期的な試みです。仙台大学という素晴らしいパートナーに恵まれて、さらに両校が結束し、発展できることを確信しています。」と語り、続いてスピーチをしたサットン国際交流学部長および副学長は「仙台大学が、“スポーツは健常者のみならず全ての人に”という精神を表明し実行している点に感銘を受けました。それこそが、東日本大震災という大災害においても日本人が助け合い、困難を克服しつつある崇高な精神に基づいているのでは」と深く感じ入った次第です。

私は2週間前のハワイ大学入学式で、娘がKRSで学ぶために、わざわざアメリカ本土のヴァージニア州から来た～というご両親にお会いしました。それほどに同学科は秀でております。

テニスの錦織選手が世界的に大活躍し、2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催される日本において、体育を専門にする大学があることに驚きと尊敬の念を抱いており、仙台大学との調印がさらなる飛躍につながることを願っています。」と感想を述べました。

その後、KRSのムラタ学科長は「11年もの仙台大学との交流・友情・信頼に心よりお礼申し上げます。仙台大学の学生達が毎年欠かすことなくアスレティックトレーナーや、スポーツ科学などについて真剣に学んでいる姿勢に、ハワイ大学にとっても国際化・異文化コミュニケーションがいかに大切であるかを痛感しています。

今回の基本合意書の締結により、さらに親交を深め、相互の大学が協力してリサーチを行うなど、教育における情報交換も活発化させていきたいと思っています。」と話しました。

それらを受け朴澤理事長は「朴沢学園理事長として、このたびのハワイ大学マノア校教育学部との調印を大変嬉しく存じます。昨年亡くなった義弟の宮田が海洋波動の研究のためハワイ大学で過ごした経験から、同大学で学ぶ意義をアドバイスしてくれたこと、学園に併設している明成高校が、修学旅行先としてハワイ大学を選定したことなどをきっかけに、義弟の娘のホノルルでの挙式の機会に打診した結果、理解を得て始まった同大学との交流の経過について、携わって頂いたハワイの多くの関係者に心からお礼申し上げます。この交流をもとにした人材育成の象徴といえるのが、明成高校を卒業し仙台大学に進学、その間を通じてハワイ大学研修に参加し、同大学大学院修学を経て米国アスレティックトレーナー資格(ATC)の取得をやりとげ、現在、ATCとして仙台大学のアスレティックトレーニングルームに勤務する鈴木のごみ新助手であります。この調印を機に新たなスタートとして、よりアカデミックな連携を深めてまいります。」と英語でご挨拶致しました。

このたびの合意を経て、同校とのさらなる連携にますます期待が高まります。



平成26年度 新任者紹介 挨拶(平成26年7月28日付)

小野勇太 新助手



7月28日より、新助手として採用頂きました小野勇太です。日体協ATと柔道整復師の資格を取得、以前は整骨院勤務でした。本学卒業生として、本学へ貢献できることを誇りに思います。勤務地は明成高校川平ATルームとなり、お会いする機会は少ないかと思いますが、身体の痛み相談はお任せください。今後とも皆様よろしくお願い致します。

今回のハワイ研修に参加させて頂き、誠に光栄に思います。海外でのアスレティックトレーナーの活躍を直に見て交流を持てたことは、とても良い刺激となりました。ハワイ大学と基本合意書締結に至るまでの関係者の苦労を無駄にせず、今後の両校アスレティックトレーナー分野において益々の発展に貢献できるよう努めて参ります。

海を越えて輝く学生達 Summer 2014

～ハワイ大学アスレティックトレーニングアドバンスコース研修終了～



9月1日から9月8日までの期間、8名の本学学生達がハワイ大学アスレティックトレーニングアドバンスコース研修に参加した。

学生たちは、英語研修、アスレティックトレーニング関連施設見学および施設内でのワークショップ（テーピング、水分補給）、KRSでの授業見学（下肢評価および運動生理学）を経験し、下肢評価ではハワイ大学学生と共に演習を行なった。医学部においては、献体解剖の見学も経験することができた。また、アメリカ（ハワイ大学）におけるアスレティックトレーナーの活動現場を見学する目的でハワイ大学アメリカンフットボールチームの練習および公式戦を視察した。

このように多岐にわたるプログラムを通し、アメリカ

（ハワイ大学）でのアスレティックトレーナーに関する教育プログラム的一端を理解できたことは参加学生にとってアスレティックトレーニングを身近に感じるとても良い学びになったと考える。

さらに、仙台大学・ハワイ大学マノア校教育学部における国際学術交流調印式、両校の2003年からの交流を記念する式典にも参加と、通常の研修にはない格別な経験を経て、仙台大学の一員であることを強く認識できる最良の機会に恵まれた。

後半、仙台大学・ハワイ大学アスレティックトレーナー関連教職員間の情報交換会も開催され、アスレティックトレーナーの教育、育成、さらに学術研究など双方にとって発展的な意見交換ができ、今後の両大学の交流に欠かせない共通理解が深まった。

参加学生が今回得られた経験を自分だけのものとせず、本学全学生に対しグローバルな視野にたった思考や行動を伝授してもらえることを期待する。両大学の教職員および学生がさらなる発展に寄与できるように努力していきたい。

<報告：体育学科准教授 村上憲治>

堀江知世新助手が管理栄養士国家試験に合格しました



堀江知世新助手（平成24年運動栄養学科卒一栃木・氏家高校出身）【=写真】が管理栄養士国家試験に見事合格しました。堀江新助手に、管理栄養士を目指したきっかけや今後の抱負を聞きました。

Q1.管理栄養士を目指したきっかけは？

私は、スポーツと栄養について学びたいと考え、本学の運動栄養学科へ進学しました。学生生活の中で部活動に対して、栄養指導に携わり、栄養指導を行うためには高度な専門的知識や技術が必要であると感じました。このような経験から、卒業後は実務経験を積み必ず管理栄養士の資格を取得しようと決めました。

Q2.合格までの道のりは？

社会人1年目は日曜日に東京アカデミーに通いながら、平日は自主学習に励みました。しかし勉強時間を十分に確保できず不合格という結果でした。不合格の通知を受け、勉強する気持ちが途切れた時期もありました。しかし受験する仲間と刺激あいながら、出勤前や通勤中、昼食中の時間を有効に活用することで学習時間を増やしました。1年目不合格という結果を味わったからこそ、今回合格できた喜びは格別でした。

Q3.今後の抱負は？

管理栄養士としてスタートに立ったばかりです。そのため知識・経験共に不足していると感じています。

今後は、健康運動指導士の受験資格があることから、再度勉強に励み資格を取得し、運動栄養学科の卒業生として「運動」と「栄養」両面から指導できる管理栄養士を目指します。

大自然の中で仲間と過ごした4日間—平成26年度仙台大学「キャンプ」



平成26年度の「キャンプ」が、宮城県白石市「南蔵王野営場（国立花山青少年自然の家管轄施設）」にて行われた。第一団は9月3日～6日、第二団は9月7日～10日、それぞれ3泊4日の日程で実施された。実習生は、6～7名の男女学科部活混成班に振り分けられ（1団12班、2団11班）、野外生活や沢登り、縦走登山に取り組んだ。それぞれの班にはキャンプカウンセラーとして補助学生が1人ずつつき、実習生と生活を共にしながら指導にあたった。

第一団は、雨のキャンプとなった。初日には、雨が降る中テントを濡らさないように設営することが求められ、どの班も苦労を強いられた。しかしながら、夕食作りの頃には協力する姿勢が見られ、スムーズに作業を進められるようになっていった。2日目の沢登りでは、少し肌寒い曇り空のもとで行われたが、今年度の学生たちの元気の良さが印象的であった。飛び込みポイントや一枚岩のウォータースライダーでは、次々と学生が水の中にダイブしていった。キャンプ実習が南蔵王野営場に移って3年目となるが、これほど学生が積極的に水の中に飛び込んでいったのは初めてであった。飛び込んだ学生は皆震えながらも、いい顔をしていた。3日目の登山では、途中雨に降られる中、過酷な登山となった。特に、最終班はなかなかペースをあげられず、ケガ人も出て、最終的には19時20分にヘッドランプをつけながらの帰着となった。他の班の学生やスタッフ達の暖かい拍手、帰着した者たちのホッとした表情や涙が印象的であった。また、その直前に、他の班のメンバーが「登山から帰ってきてすぐにカレーが食べられるように、彼らの夕食を準備させてほしい」と嘆願してきたことも、とても嬉しい一幕であった。

第二団では、うってかわって天候に恵まれたキャンプとなった。まったくといっていいほど雨に降られることはなく、全てのプログラムを予定通り野外で行うことができた。天候が安定している分、協力して作業をスムーズに進めることができた班には余裕ができる。あいた時間の中で沢遊びや場内散策にでかけたり、ゆったりしたりそれぞれの班で思い思いの時を過ごしていた。

2日目の沢登りや3日目の縦走登山でも、一団と同様に非常に元気であった。この2団で特筆すべきことは、誰一人装備不備者がいなかったことと、全員が3日目の縦走登山にチャレンジし、誰一人欠けることなくコースを歩ききったことである（例年、雨具に不備があったり、ケガで登山にチャレンジできない者がいた）。登山後に行われたキャンプファイヤーでは、各班で考えたスタuntsを発表したが、これまた例年のないほどすばらしい出来映えであった（1団も同様に、過去2年間より出来映えのよいものであった）。

南蔵王野営場にキャンプ実習を移してから、今年度は3年目の実習であった。オリエンテーションを厳しく行い、先輩からの「大変だけど有意義である」というロコミの影響もあり、年々実習生の質があがっているように感じる。同時に、指導する補助学生の能力や意識も確実に向上している。3年の試行錯誤を通して、原始的な野外生活を基盤として登山をメインプログラムとするキャンプ実習をつくりあげることができたが、よりよい実習のためにスタッフの体制やマネジメント面で改善する部分はまだ残されている。来年度もさらによりよいキャンプ実習になるよう努力していきたい。

<記事・写真：岡田成弘講師提供>



生活習慣病予防運動教室を開催



スクワット(両腕を前に出しながら、ゆっくりと腰を下ろす)の様子

9月5日(金)、本学で「生活習慣病予防運動教室」(主催:柴田町・仙台大学スポーツ健康科学実践機構)の第3回目が行なわれ、柴田町在住の生活習慣病が気になる65歳未満の男女約20名が参加しました。この日は、柳澤麻里子新助手が生活習慣病についての健康講話を行ないました。また、小池和幸教授(写真中央)が運動指導を担当。参加者の皆様は、健康づくり運動サポーター(※)の資格取得を目指す本学の学生らと一緒に、歌を歌いながら足踏みやスクワットをしたり、椅子に座って膝上げをしたりするなどして楽しく運動を行ないました。

柳澤新助手は「参加者にはお一人ずつ歩数計を貸出し、毎日の歩数や運動内容などを2週間ずつ記録用紙に記入して頂いています。生活習慣病予防運動教室が終わる頃には、運動の習慣をはじめ、これからの生活習慣が少しでも変化していくことを期待しています」と話しました。

この運動教室は、「楽しみながら生活習慣を改善し、生活習慣病の予防や転倒、骨折しにくい身体をつくるための知識と運動を学ぶ」ことを目的として、7月～12月まで6回にわたって開催されます。今後は、骨密度測定やインボディ測定などを実施し、生活習慣病の早期発見及び生活習慣の改善のアドバイスなどを行なっていく予定です。

※「健康づくり運動サポーター」は本学独自の認定資格で、同サポーター養成プログラム(実践)を修了することによって認定されます。地域密着型の「健康づくり運動サポーター」養成プログラムは、運動についての正しい知識をもち、「安全に」「元気に」「明るく」「楽しい」運動指導のできるサポーターを養成し、体育系大学としての特徴を生かして、地域の健康づくりに貢献しようというものです。

柴田町総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会プレイベント —フライングディスク体験会を実施



9月15日(月・祝)、仙台大学サッカー・ラグビー場で「柴田町総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会プレイベント—フライングディスク体験会」(主催:柴田町総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会、協力団体:宮城県フライングディスク協会・仙台大学アルティメット同好会)が実施されました。このプレイベントは、フライングディスク(フリスビー)を使った珍しい遊びやゲームなどの体験を通じて、町民相互の触れ合いを図って頂きながら、ディスクスポーツの楽しさを発見して頂き、生涯スポーツに繋がる一つのきっかけを提供することを目的に開催されました。当日は、天候にも恵まれ、

柴田町在住の子どもやお年寄り、障がいをもった方など約120名が参加しました。

フライングディスクの正しい握り方や綺麗に投げるためのコツなどは、本学の弓田恵里香助教

(2014世界アルティメットクラブ選手権マスターの部日本代表・4位/宮城県フライングディスク協会アルティメット普及委員)から説明【=写真】がなされ、ディスタンス(遠くに飛ばす種目)・アキュラシー(ストラックアウトのボールがディスクになった的を狙う種目)・ディスクゴルフ(グランドゴルフをディスクで行う種目)・アルティメット(バスケットボールやサッカーをディスクで行う種目)の4種目を体験。参加者の皆様方は、思う存分フライングディスクを楽しみました。

本学の仲野隆士体育学科長(柴田町総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会副会長/宮城県フライングディスク協会副会長)は「平成27年3月に柴田町総合型地域スポーツクラブが設立されるように準備を進めている。設立の際は、フライングディスクにも力を入れていきたいと考えている。町民のニーズを確認したかった」と話し、「参加者の皆様方が興味関心を持ってくださっている様子が伺え、安心できた」と話しました。

亘理・仮設住宅で仙台大学と獨協大学との共同ボランティア活動を実施



共同ボランティアを終えての集合写真＝亘理町中央工業団地仮設住宅内集会所

9月22日（月）、仙台大学と獨協大学（埼玉県）の学生たちが亘理町中央工業団地仮設住宅内集会所を訪問し、共同でボランティア活動を行ないました。ボランティア活動に参加した学生たちは、仮設住宅の住民の皆さんと交流を深め、楽しいひと時を過ごしました。

本学では、東日本大震災以降、災害ボランティア活動として亘理町でエコノミークラス症候群・廃用症候群の予防を目的とした運動指導を継続して行なってきました。この日も、本学の橋本実教授、齋藤まり・松浦里紗の両新助手に加え、本学の体育学部健康福祉学科の学生3名も「ストレッチ体操」・「ラジオ体操」を行なったり、楽しく歌いながら体を動かしたりするなどの運動指導やレクリエーションゲームを担当しました。また、この日は、本学の災害ボランティア活動に賛同下さった、異文化とのコミュニケーションを学んでいる獨協大学外国語学部・工藤和宏講師のゼミ生12名が「人間図書館」と題して、自らの経験・体験を通して感じたことなどを発表し、住民とのコミュニケーションを図りました。

共同ボランティア終了後は、本学に戻り、仙台大学と獨協大学との学生同士の活発な意見交換が行なわれ、親睦も深めた有意義な会となりました。

スリランカ、コロンボから報告Ⅱ－横川和幸元仙台大学教授



大学食堂のネーム入りプレートです（大きさが分かるよう時計とサングラスを置きました）。



食事風景その1
栄養学的にどうなのでしょう。



食事風景その2
栄養学的にどうなのでしょう。



スリムな選手達です。



感謝の気持ちを表す作法です。



幅跳びの踏み切り板と砂場です。

コロンボから任地アヌラダプラへ移動して2週間が経ちました。ここは文化三角地帯と呼ばれる都市のひとつです（あとの二つはポロンナルワ、キャンディ）。沢山の遺跡や寺院が点在し、観光の街として知られています。

体育大学でのアンダー18選抜陸上競技合宿の一部を報告します。

選抜された約40人は、スリムな形態でバネがあり将来有望な選手もいました。ただ、グラウンドの状況は土で凹凸がひどく、石ころも転がっています。なかなか全力では走れそうもない環境でした。コーチ達とのディスカッションも何度か行ないましたが、日本のトレーニングシステムが理解できないようです。

「どうしてそんなに練習するのか?」、「それは何回すればいいのか?」「トライアンド・エラーって何だ?」など面白い質問がたくさんあり楽しい合宿でした。

※この合宿で初めて右手の指を使って食事しました。

<寄稿：スリランカ教育省
体育・スポーツ課 横川和幸>

デンマーク・リレベルト大学の学生4名を受入れ



9月16日（火）、国際交流協定校のデンマーク・リレベルト大学の学生4名が、高橋国際交流センター長・鎌田教授・渡邊事業戦略室長と共に学長室を訪れました。Klaus Andersenさん、Sara Seirさん、Patrick Vesthさん、Thomas Damasgaardさんの4名は同大理学療法学科の学生で、18日（金）まで自国と日本におけるリハビリテーションに関する学びを深めるため、日本の文化に触れたり日本の病院を視察したりするなど、日本への理解を深めました。

台湾・台東大学からの交換留学生5名を受入れ



9月24日（水）、国際交流協定校の台湾・台東大学から学生5名が挨拶のため、現在本学大学院1年生である盧彦中さん（写真左端：台東大学と仙台大学の両大学の学位をダブルディグリー制度により取得）と一緒に学長室を訪れました。詹斐雯さん、邱琦玲さん、林旻昊さん、張家騰さんの4名は、1年間、学部の科目等履修生として学びます。また、林彦宇さんは、2年間、ダブルディグリー制度により本学で学位取得を目指します。

ソチ五輪スケルトン日本代表のOB笹原友希選手を励ます会・後援会発足パーティー



写真提供：朴澤理事長

笹原選手に花束を贈呈する
 仙台大学同窓会秋田支部の小林支部長
 =秋田キャッスルホテル

9月10日（水）、秋田キャッスルホテル（秋田市）で、ソチ五輪スケルトン日本代表のOB笹原友希選手（平成19年運動栄養学科卒ー秋田中央高校出身）を励ます会・後援会発足パーティーが開催されました。秋田テレビや秋田魁新報社など地元企業の方や、仙台大学同窓会秋田支部長の小林恵津子氏（昭和55年体育学科卒）、本学からも朴澤泰治理事長が参加し、62名の方が笹原選手へ熱いエールを送りました。

後援会長の最上英嗣氏（秋田県議会議員）は「2018年の平昌五輪までには、後援会の会員数300名を目標にした」と。朴澤理事長は「仙台大学とスケルトンの名を知ってもらうためにも頑張ってもらいたい。大学で学んだスポーツ科学や栄養学を競技力向上に活かしてほしい」と述べました。

笹原選手は「秋田に金メダルを持って帰りたい。感謝の気持ちを忘れず、夢や目標に向かって頑張りたい」と決意を語りました。

笹原選手を励ます会・後援会発足パーティーは盛会裏に終了しました。

2014年度日本芝草学会秋季大会(仙台大学)—10月5日・6日に開催

「まちづくり」と「芝生」

震災復興における

主催：日本芝草学会

**2014年度日本芝草学会
秋季大会(仙台大学)**

シンポジウムと特別講演(一般公開) **無料**

開催日：2014年10月4日(土)～5日(日)

シンポジウム 4日(土) 13:30～17:10

①震災復興におけるまちづくりの具体的な取組
—震災復興のまちづくりに定念を取り入れる—
石川幹子氏(中央大学教授・東京大学名誉教授)

②宮野市の沿岸被災地復興
—既存施設あるものに新たな役割を—
本多敏秋氏(宮野市議員)

③震災復興の進捗状況と課題
—仙台市のどよみの復興—
佐々木真氏(仙台市建設局百年の杜推進課長)

特別講演 5日(日) 13:00～15:00

①『私と東北、そしてFIFAワールドカップ』
～1982年スペイン大会からの国際親善V経歴とブラジル大会1ヶ月の滞在を踏まえて～
松本弘長氏(日本フェリス大学教授・筑波大学名誉教授)

②サッカーワールドカップと日本のスポーツ
～各種スポーツ施設の整備とそのあり方～ (秋篠宮太子妃(東洋グリーン(株)))

講師： 国土交通省東北地方整備局、宮城県、仙台市、建設省、建設局、
日本建築協会宮城県支部、宮城県ゴルフ場協会、東北新聞、毎日新聞仙台版、
仙台新聞、仙台放送、セゾンビル、仙台放送事業部、仙台大学

2014年度日本芝草学会秋季大会 電話：0224(55)1579(直通) 0224551121(代表)

運営事務局 仙台大学 管理課 FAX: 0224(55)1181 Email: frm-ajima@sendai-u.ac.jp

仙台市青葉区 二ツ又 小島ビル 〒989-1663 宮城県仙台市青葉区宮前2-2-18

震災復興における

「まちづくり」と「芝生」

主催：日本芝草学会

2014日本芝草学会秋季大会(仙台大学)のチラシ

10月4日・5日・6日の三日間、「2014年度日本芝草学会秋季大会」が本学で開催されます。本大会では、一日目に津波被災地をバスで巡回視察し、翌日から皆様と共にスローガンに沿った討議を重ねる予定です。二日目はゴルフ場部会・公園緑地部会と「防災や復興における芝生の役割」をテーマとした公開シンポジウムを開催します。三日目は校庭芝生部会・公園緑地部会と「サッカー・ワールドカップブラジル大会の報告」として公開特別講演会を開催致します。

※シンポジウムと特別講演は一般公開で、どなたでもご参加になれます。(予約不要・無料)

2014東北こども博—10月12日(日)・13日(月・祝)に開催決定



遊んで、からだを動かし、元気になろう!!

2014 東北 こども博

おもちゃ遊び、スポーツや音楽、アウトドアなど
体験・参加できるイベントがいっぱいの2日間です。
屋台村も充実!

同時開催
スポーツフェスティバルin柴田
仙台大学 大学祭

入場無料

2014年 10月12日(日) / 13日(月・祝) 10:00-16:00 会場 仙台大学
宮城県仙台市青葉区宮前2-2-18

2014東北こども博のポスター

仙台大学、柴田町、NPO法人東日本大震災こども未来基金等で構成される東北こども博実行委員会は、来たる10月12日(日)・13日(月・祝)の二日間、仙台大学キャンパスにおいて「2014東北こども博」を開催致します。(仙台大学大学祭と両日同時開催)

東北こども博は、「復興」・「笑顔」をキーワードに2011年10月からスタートし、今年で4回目となります。こどももおとなも、老若男女すべての方々に笑顔をもたらすようなイベントです。おもちゃ遊び、スポーツや音楽、アウトドアなど体験・参加できる楽しさいっぱい2日間です。

入場は無料ですので、皆さまお誘い合わせの上、ぜひご来場下さい。

<2014東北こども博公式ホームページ>
<http://www.sendaidaigaku.jp/kodomohaku/>

東北アメリカンフットボールリーグ戦開幕



第4クォーター・DB清野雄太主将（33）（体育学科4年—岩手・盛岡南高校出身）がタッチダウンを決め、17-21と4点差に追いつける。＝ダイナヒルズ運動公園

8月31日（日）、ダイナヒルズ運動公園（宮城県大和町）で「第39回東北アメリカンフットボールリーグ戦」が開幕しました。

3年ぶりの「王座奪還」を狙う本学は、開幕戦で東北学院大学と対戦。3点リードで第2クォーターを終えたものの、第3クォーターで東北学院大学に逆転されました。第4クォーターでDB清野雄太主将（体育学科4年—岩手・盛岡南高校出身）がタッチダウンを決め、4点差に追いつける粘りを見せるものの、17-28で惜敗しました。



WR池端竜也選手（5）（体育学科2年—秋田西高校出身）が華麗なステップで相手ディフェンスを翻弄する。

東北地区大学サッカーリーグ開幕 —12発快勝、インカレ出場に向け好スタート



FW宮澤選手が先制ゴールを決める。＝仙台大学サッカー・ラグビー場

9月6日（土）、仙台大学サッカー・ラグビー場で「第39回東北地区大学サッカーリーグ」が開幕しました。本学男子サッカー部は、秋田大学と対戦し、12-0と圧勝。14年連続31回目のインカレ出場に向け好スタートを切りました。MF宮澤弘選手（体育学科1年—柏レイソルユース出身）とFW蓮沼翔太選手（体育学科3年—柏レイソルユース出身）がハットトリックの活躍を見せ、大勝に大きく貢献しました。

硬式野球部、野口亮太投手(体育学科4年)がリーグ通算25勝を達成



リーグ通算25勝を達成した野口投手＝東北福祉大学野球場

9月14日（日）、東北福祉大学野球場で仙台六大学野球秋季リーグ第三節「仙台大学—東北大学」の1回戦が行なわれ、7-0で仙台大学が勝利（7回コールド）しました。

野口亮太投手（体育学科4年—群馬・前橋商業高校出身）は、今季3勝目、歴代9位タイのリーグ通算25勝を挙げました。東北大学を6回3安打7奪三振無失点。三塁を踏ませない安定した投球を見せました。

163cm左腕・野口投手は「記録は気にせずに、一戦一戦集中して戦っていききたい。自分の持ち味は制球力。緩急をつけた丁寧な投球を心がけ、春秋連覇に貢献したい。絶対神宮に行きたい」と力強く今後の抱負を語りました。

インチョン2014アジアパラ競技大会陸上競技(投てき3種目)日本代表の加藤由希子選手(健康福祉学科3年)が健闘誓う



大会に向けて砲丸投げの練習に励む加藤選手
=仙台大学陸上競技場

平成26年10月18日(土)～24日(金)までの7日間、韓国・インチョンで開催される「インチョン2014アジアパラ競技大会」の陸上競技(投てき3種目)の日本代表

かとう ゆきこ

に、本学陸上競技部の加藤由希子選手(健康福祉学科3年一宮城・気仙沼女子高校出身)が選出されました。

同大会は、23の競技にアジアの42か国と地域の約5,000人の選手が参加する障害者スポーツの祭典です。

加藤選手は、左腕が義手(生後6か月から義手を装着している)のアスリートで、ジャパンパラ大会の投てき3種目(やり投げ・円盤投げ・砲丸投げ)の日本記録保持者。9月7日(日)に山口県山口市で行なわれた「2014ジャパンパラ陸上競技大会」の女子砲丸投げでは、加藤選手が11メートル66の日本新記録で優勝しました。

加藤選手は「2016年のリオデジャネイロパラリンピック・2020年の東京パラリンピックに繋がる大会にしたいです。砲丸投げで世界新記録を狙います」と活躍を誓い、「東日本大震災で私の故郷の気仙沼も大きな被害を受けました。金メダルを獲って、被災地を元気にしたいです。スポーツは、障害者も健常者も関係なく、被災地を元気にすることができると思います」と熱い想いを語りました。

全日本大学駅伝東北予選会



前から西澤賢治選手(28)(健康福祉学科4年—青森中央高校出身)・小野将太選手(11)(体育学科1年—宮城・明成高校出身)・本郷拓海選手(18)(体育学科1年—福島・田村高校出身)

9月20日(土)、本学陸上競技場で「第46回全日本大学駅伝東北予選会」が行なわれました。

東北4県の7大学が参加し、各校8人がトラックで1万メートルを走り、全員の合計タイムを競いました。全国大会に出場できる大学は、1位のみ。本学は4位で、残念ながら全国大会出場を逃しました。

<最終順位>

- 1位：東北大(4時間16分44秒)
- 2位：岩手大(4時間21分50秒)
- 3位：東北学院大(4時間27分47秒)
- 4位：仙台大(4時間29分12秒)
- 5位：富士大(4時間35分26秒)
- 6位：秋田大(4時間37分17秒)
- 7位：山形大(4時間40分1秒)